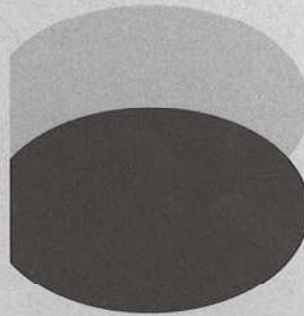


2008131

絵本学会 NEWS No.32

発行：絵本学会
発行日：2008年1月31日
編集：絵本学会広報委員会
絵本学会事務局：〒567-8578大阪府茨木市宿久止2丁目19-5
梅花女子大学児童文学科加藤康子研究室内
E-mail：ehon-g@baika.ac.jp
<http://www.u-gakugei.ac.jp/ehon/index.html>



絵本学会

絵本フォーラム '07報告
研究会・絵雑誌展覧の報告
各種委員会から
会員から
絵本関係 展覧会 インフォメーション
第11回絵本学会大会のご案内
事務局からのお知らせ
・理事会報告
・寄贈図書紹介

絵本フォーラム '07 「和の絵本を考える」報告 灰島かり（企画委員長）

毎年開催されている絵本学会主催の絵本フォーラムですが、今年度は10月6日（土）に、高田馬場にある日本児童教育専門学校に於いて、行われました。今年の参加者は57名で、1日ばかりで絵本について語り合う充実した会となりました。ただ学会員の参加が約10名と、いささか少なかったのが残念です。来年はまた新しい企画を練りますので、学会員の皆さまにも、時間を作って参加していただけたらと願っています。

フォーラムのくわしい内容は、絵本学会機関誌である「絵本BOOK END」の今年度号に掲載されますので、ここでは簡単にさわりだけをご報告します。

フォーラムのテーマは「和の絵本を考える」でした。本屋さんの絵本のコーナーを見渡すと、日本の伝統芸能や、日本らしい暮らし、そして日本語をテーマとした絵本が増えているようです。どんな本があり、どんなふうに使われているのでしょうか？ その魅力はどこにあるのでしょうか？ そしてなぜ和の絵本が増えているのかを考えてみたいという企画でした。

和の絵本にどんなものがあるか、確認してもらうために、展示コーナーを設けました。落語絵本や狂言絵本、絵巻風の絵本や、妖怪絵本、さらに表現に和のこだわりが見られる絵本まで、200冊近い本を展示し、参加者が実際に手にとって見てもらうことができたのは、収穫だったと思います。

豪華な顔ぶれのゲスト・スピーカーは、詩人のアーサー・ビナードさん、月刊MOEの編集者の位頭久美子さん、絵本作家の川端誠さん（発言順）の3人の方々です。

アーサー・ビナードさんは、詩人、エッセイスト、絵本作家、翻訳家、またラジオのパーソナリティと幅広く活躍しています。表意文字である漢字にひかれて来日を決意したとのこと。日本の伝統美術への造詣の深いビナードさんですが、「和の絵本」という切り口への疑問から、口火を切ってくれました。「和の絵本」と言うと、日本文化を西洋に対してエスニックととらえる視点が感じられる。それは日本文化を貶めているのでは、という疑問でした。外国の視点で日本文化を見るからこそ、新鮮であり、そこからエネルギーを汲むことができるのではないか、というのが企画委員会の考え方でしたが、ビナードさんの指摘は鋭いものでした。とはいえユーモアたっぷりのビナードさんのこと。話はなごやかに進みました。企画委員を含む参加者の皆さんも大いに刺激を受けたことと思います。

位頭久美さんは1989年より、月刊MOE編集部に所属しています。和の暮らしを柴犬が紹介するという「しばわんこ」のシリーズ（川浦良枝作）の生みの親として有名です。当時新人イラストレーターだった川浦さんの絵を見た位頭さんが、絵のタッチをいかして、和の文化を紹介するいわば蘊蓄絵本を作ることを企画しました。企画は当たって、累計55万部という大ベストセラーとなりました。NHKでアニメ化されたので、テレビで見た人も多いことでしょう。出版の裏話や、読者がこの絵本を通じて日本文化をどうやって楽しんでいるか、具体的な話はとても魅力的で、教わ

ることが多かったです。

川端誠さんは、お化けシリーズ、十二支シリーズ、風来坊シリーズ、またあいさつの絵本シリーズなど、質の高い絵本を数多く生みだしている第一線の絵本作家です。1994年から古典落語をテーマとした絵本を版画で制作。今でこそ落語絵本も色々出版されていますが、口火を切ったのは川端さんの落語絵本です。出版当時から、その新鮮さに、各方面で話題を呼びました。川端さんは、なぜ落語をテーマとしたのか、なぜ版画という手のかかる手法をとったのかを熱く語ってくれました。川端さんの講演会はその迫力とおもしろさで、つとに有名です。第3部ではリクエストに応じて、自らの落語絵本「めぐろのさんま」を読んでもらいましたが、そのおもしろいこと、おもしろいこと。絵本が語りの芸術に近いことを改めて認識した方も多かったと思います。

午前中は3人のスピーカーにそれぞれ語っていただき、お昼をはさんで午後からはビナードさんの部屋と、川端さんと位頭さんの部屋の2室に別れて、参加者をまじえて語り合う会を持ちました。最後は再び全員が集まって、ゲストによる座談会、参加者の質問や情報の交換となり、盛りだくさんな1日でした。参加者の意見も活発で、楽しく充実した会でした。「絵本学会って、こんなおもしろいことをやっているんですね」という感想をくれた方もいて、いささか手前味噌ですが、参加した方々の満足度はとても高かったと思います。

ゲストのお三方はじめ、会場を提供してくれた児童教育専門学校、またご協力いただいた皆さまに、この場を借りてお礼申し上げます。



研究会・絵雑誌展覧報告

棚橋美代子（研究委員長）

月刊絵本・絵雑誌の細目・資料等のデータベース化に関する研究会と、戦前の『キンダーブック』の展覧を以下の通り開催いたしましたので、ご報告いたします。

●研究会

1. 日時：平成19年11月11日(日) 13時30から16時
2. 場所：京都女子大学
3. 話題提供者：岩崎真理子、阿部紀子
4. コメンテーター：
飯沢文雄(明治大学図書館・書誌学)
向川幹雄(大阪児童文学館・児童文学)
5. 司会：棚橋美代子
6. 参加者：14名
7. 内容：

岩崎会員からは、パソコンを使用しない時代の細目作りの苦勞と、原典に当たる重要性・細目の限界・研究者の共通認識・出版の時期の問題などについての提案があった。

阿部会員からは、さらにデーターのとりかたの具体的提案があった。

それら提案を受けて、飯沢氏からは書誌の正確さが強調され、共通で表記すべき属性を表すことばについても共通認識が必要との指摘がなされた。

また、向川氏からはデーターの発信については大阪国際児童文学館が協力できると提案いただいた。

参加者が全員発言する形で論議がされ、当面このような研究会を持続し細目の表記項目について検討する、絵雑誌に関わる用語集を作る作業をする、データベースソフトは書誌学の研究世界と共通の「アクセス」が好ましいの3点を確認した。

●「戦前のキンダーブック」の展覧

1. 期間：平成19年11月2日～11日
2. 場所：京都女子大学・錦華殿
3. 主催：京都女子大学図書館
協賛：真宗保育学会、絵本学会
4. 内容：

絵雑誌のため、わかりやすく美しいということで評価を得た。京都新聞・CBCの取材も受けたため外部の来館者も多く好評だった。

・附記

簡単な図録を作成しましたので、未入手の絵本学会会員に「絵本学会NEWS」に添付して送らせていただきます。

各種委員会から

●紀要編集委員会からのお知らせ

★絵本学会紀要「絵本学」第11号投稿論文募集について

絵本学会紀要「絵本学」第11号への投稿論文を、次の要領で募集します。ふるってご応募ください。なお、掲載した投稿規程の他に執筆要領があります。投稿希望者は事務局に請求、取り寄せの上、それに従って原稿を作成して下さい。

★絵本学会研究紀要「絵本学」投稿規程

◎投稿資格：絵本学会会員および準会員

◎内容：絵本に関する研究論文、研究ノート、論説、報告で、未発表のもの。

【研究論文】は、研究の視点や手法、理論展開及び結論にオリジナリティや説得力が高く認められるもの。

【研究ノート】は、研究の基礎データになる資料、あるいは理論構築の可能性が認められるもの。

【論説】は、学術的な論で、注目すべき研究・作品・作家・展覧会・活動を取り上げての評論など。

【報告】は、活動紹介や文献紹介など。

◎掲載採択：査読に基づき、編集委員が掲載の採否を決定する。必要に応じて編集委員の外に査読委員を依頼する場合がある。採否判定の過程・理由は開示しない。ただし、投稿者は、結果について説明を求めることができる。この場合、編集委員会は申し出内容を精査の上、適正範囲内で回答する。

◎投稿締切：2008年9月30日(火)(必着)

◎掲載採択通知：2008年12月15日(月)までに投稿者へ通知する。

◎刊行：2008年度内

◎原稿送付先：絵本学会事務局(郵送とする。FAX、電子メールなどによる送付は不可)

●機関誌編集委員会からのお知らせ

★機関誌「BOOK END2008」(4月発行予定)

会員アンケート原稿募集

下記のとおり原稿を募集します。

・会員アンケートのテーマ

わたしが選んだ 絵本表現で選ぶ3冊

わたしが選んだ 読み聞かせの絵本3冊
＜未就学児対象＞

わたしが選んだ 読み聞かせの絵本3冊
＜小学生以上対象＞

わたしが選んだ 絵本研究論文／記事／研究書3冊

・投稿要項

投稿資格：絵本学会会員および準会員

対象：2007年1月～2008年1月までに発表の絵本、論文、記事を原則とする。

字数：800字以内、縦書き、詳細は前号のアンケートを参照。

投稿締め切り：2008年2月29日(金)

原稿送付先：編集委員長・生田宛

★機関誌「BOOK END 2007」の訂正

以下の誤りがありました。訂正し、お詫びします。

- ・グラビア頁 『もこもこもこ』もとながさだまさ絵(誤)
→『もこもこもこ』もとながさだまさ絵(正)
- ・グラビア頁 『fantastic!』(ポーランドの絵本作家ヨゼフ・ウィルコンの世界)(誤)
→『ブラティスラヴァ世界絵本原画展』(正)
- ・p.62本文 『月刊絵本クロニクル』(誤)
→『月刊保育絵本クロニクル』(正)
- ・p.63本文 『草草紙事典』(誤)
→『草双紙事典』(正)
- ・p.69本文 北村さとし(誤)
→きたむらさとし(正)
- ・p.69図版 『こどものためのワークショップ—その知材はだれのもの?』(誤)
→『こどものためのワークショップ—その知財はだれのもの?』(正)
- ・p.97タイトル 2006年に開催された絵本原画展(誤)
→2006年に開催された絵本原画展と絵本作家の展覧会(正)
- ・p.97リスト 2005.12.1-1.31長新太展(誤)
→2005.12.1-12.31長新太展、
2006.1.1-1.31長新太展(正)
- ・p.97リスト 2005.11.12-1.15 荒井良二展(誤)
→2006.1.10-1.31(正)
- ・p.97リスト 2006.1.10-1.31 みやにしたつやと武田美穂絵本原画展(誤)
→2005.11.12-2006.1.15(正)

会員から

『あかちゃんの本箱』と『赤ちゃんの本棚』の翻訳をめぐって

三宅興子

『あかちゃんの本箱』も『赤ちゃんの本棚』もニュージーランドのドロシー・バトラー著Babies Need Books の翻訳で、前者は、1980年刊のものを1989年に横山真佐子訳（ブック・グローブ社）で、後者は、1998年刊の改訂版から2002年に百々祐利子訳（のら書店）で出版されている。

絵本学会の機関誌「ブックエンド」第3号で、「絵本のブックリスト総点検」の特集をしたおり、「赤ちゃん絵本のブックリスト」を取り上げ、そのなかに、上記の2著を比較することをせず、『あかちゃんの本箱』のみを記載した(p.71)。しかし、読者から後者の翻訳を掲載するのが妥当ではないか、というご教示をいただき、遅ればせながら、ふたつの訳書を比較検討してみた。その結果を、簡単に、報告してその号の編集者としての責務をはたしたい。

『あかちゃんの本箱—0歳から5歳の絵本—』は、原著の「book」を限定して「絵本」と翻訳している。手元にある英文のものは、イギリスで1982年に出たペリカン・ブックスであるので、原著とのズレがある可能性があるが、“How to Share the Joy of Reading with Your Child”という副題がついている。原著者は、あくまで「本」（もちろん絵本も含む）を子どもと読みあう大切さを力説しているのだから、その内容には、詩集やお話の選集なども入ってきており、「絵のない本」への導入にもふれている。このことは、かなり大切な論点と思われる。「絵本」を本という枠組みで考えるのか、「絵本」という別の枠組みで考えるのかで、その意味するところも違って来るからである。また、「第六章 四歳になりました」は、原著では、“When I was Five, I was just alive”も目次として併記されており、4歳が5歳と変わらない能力をもっており、本の導入にふさわしい年齢として扱われている。A・A・ミルンの詩の引用であるので、章立てとしての工夫は必要だったと思われる。もうひとつの、そして、最大の疑問は、原著をかなりカットしているのに、そのことに一切ふれていないことである。例えば、結論部分の最後の10行が削除されている。“There is one overriding requirement, however, if books are to work for children in this way.” (p.189-190) ではじまる文章で、まさに、結論といえる部分である。

『赤ちゃんの本棚—0歳から6歳まで—』は、全訳であり、原著者の本に関する主張をきちんと日本の読者に伝えている。機関誌「ブックエンド」では、こちらの改訂版を、参考文献として取り上げるべきであったといえる。

絵本関係展覧会案内

●軽井沢絵本の森美術館

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢182-1

TEL.0267-48-3340 FAX.0267-48-2006

<http://www.museen.org/ehon/>

info@museen.org

★2008年春展

「マザーグースの絵本展」～語り継がれる童謡の世界～

会期：2008年3月1日（土）～6月16日（月）

●エルツおもちゃ博物館

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢182-1

電話0267(48)3340 fax.0267(48)2006

info@museen.org

★2008年春展

「ヨーロッパの知育玩具展 ～夢と感性を育む木のぬくもり～」

会期：2008年3月1日（土）～6月23日（月）

●射水市大島絵本館

〒939-0283 富山県射水市鳥取50

TEL：0766-52-6780 FAX：0766-52-6777

<http://www.ijnet.or.jp/ehonkan/>

★島田ゆか絵本原画展

会期：2月1日～3月27日

展示原画：

「バムとケロのそらのたび」「バムとケロのおかいもの」

●ちひろ美術館・東京

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2

TEL 03-3995-0612 / テレフォンガイド 03-3995-0820

FAX 03-3995-0680 <http://www.chihiro.jp/tokyo/>

2月は館内整備のため休館、3月1日から開館。

●安曇野ちひろ美術館

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原

TEL. 0261-62-0772 / テレフォンガイド 0261-62-0777

FAX 0261-62-0774

<http://www.chihiro.jp/azumino/top.htm>

冬季休館中 2008年は3月1日（土）から開館。

●世田谷文学館

〒157-0062 世田谷区南烏山1-10-10

TEL.03-5374-9111 FAX.03-5374-9120

<http://www.setabun.or.jp/>

★第9回世田谷フィルムフェスティバル

「脚本と映画 橋本忍の仕事」

会期：1月29日(火)～3月23日(日)

会場：イベント=1階文学サロン

資料展示=2階常設展示室

観覧料：一般200円／高大生150円／小中生100円／65歳以上100円

●イルフ童画館

〒394-0027 長野県岡谷市中央町2-2-1

TEL 0266-24-3319(ミミズク) FAX 0266-21-1620

<http://www.ilf.jp>

★「武井武雄絵本原画展 ～にしきのむら～」開催中

★モーリス・センダック常設展開催

●ワイルドスミス絵本美術館

〒413-0235 静岡県伊東市大室高原9-101

TEL0557-51-7330 FAX0557-51-7331

開館時間：AM10:00～PM 5:00 (入館は4:30まで)

休館日：火曜日・水曜日

(春・夏休み、年末年始、祝日は開館)

入館料：一般 700円 団体割引 (20名様以上)

小学生以下は無料

★常設展示中

グランド・ピアノのある部屋

大作(油彩画)の飾られた部屋

●世界のバリアフリー絵本展

I B B Y障害児図書資料センター 2005年度推薦図書40タイトルの展示。(日本の図書は6タイトル)

期間：2008年3月8日(土)～23日(日)

場所：浜松市立城北図書館

〒432-8003 浜松市中区和地山二丁目37番地2号

Tel.053-474-1725 Fax.053-474-7530

開館時間：

火～金曜日 午前9時～午後7時

土・日・休日 午前9時～午後5時30分

休館日：月曜日(休日を除く)

開催者：林(伊香)佐和子(静岡文化芸術大学)

J B B Y日本国際児童図書評議会共催

第11回絵本学会大会のご案内

第11回絵本学会大会は、2008年6月21日、6月22日の両日、藤女子大学(北海道札幌市)で開催されます。プログラム等々の詳細は、未定なところもありますが、以下のような概要で予定をしていますので、ご案内いたします。

★会場：

藤女子大学(札幌北16条キャンパス)

〒001-0016 札幌市北区北16条西2丁目

★問い合わせ先

第11回絵本学会大会事務局

藤女子大学人間生活学部保育学科杉浦研究室(花川校舎)

〒061-3201 北海道石狩市花川南4条5丁目

電話0133-74-3111(事務室)

fax. 0133-74-7431(研究室)

E-mail : asugiura@fujijoshi.ac.jp

★メインテーマ：絵本—“こころ”を伝える

★プログラム

6月21日(土) 第1日目

12:30 受付開始

13:00 開会式

13:30 講演「児童文学に絵をそえること」

講師：黒井健(イラストレーター・絵本作家)

14:50 休憩

15:05 講演「絵本の心理学—“いないいないばあ”

から“かいじゅう”まで—」

講師：佐々木宏子(環太平洋大学)

16:25 休憩

16:40 絵本学会2008年度総会

18:00 交流会(札幌ビール園)

7月1日(日) 第2日目

9:00 受付開始

9:20 研究発表

12:20 昼食・休憩

13:00 作品発表

ショートプログラム(13:00～14:00)

けんぶち絵本の里—20年を語る—

司会：伊藤道明(子ども支援活動家)

14:20 休憩

14:30 ラウンドテーブル(分科会)

R1「北の自然と私の絵本」

話題提供者：

手島圭三郎(版画家・絵本作家)

藤田春義(ろばのこ店主)

コーディネーター：

杉浦篤子(藤女子大学)

R 2 「絵本における浅き良心のゆくえ」(仮)

話題提供者:

石井光恵 (日本女子大学)
岩崎真理子 (日本児童教育専門学校)
村中李衣 (梅光学院大学)

コーディネーター:

福田洋子 (「こども富貴堂」 店長)

R 3 「保育現場で出会う絵本」

話題提供者:

阿部弘子 (はこぶね保育園園長)
齊藤千代 (札幌大谷第二幼稚園)
佐々木宏子 (環太平洋大学)

コーディネーター:

清水貴子 (北海道文教大学短期大学部)

16:20 休憩

16:30 閉会式

★会期中、絵本ブックフェア (事務局コーナーに持ち込み可)・サイン会を開催

★会場 (16条校舎) への交通案内

☆JR新千歳空港駅 (B1) ~札幌駅間は「快速エアポート」が運行15分間隔、所要時間36分

☆札幌駅から

1. 地下鉄: 南北線「北18条駅」下車、徒歩5分
2. 地下鉄: 東豊線「北13条東駅」下車、徒歩10分
3. タクシー: 札幌駅より10分
4. 徒歩: 札幌駅より20分

★宿泊につきましては、会員各自にてご手配ください。



●第11回絵本学会大会研究発表者募集

◎研究発表募集要項

1. 発表者の資格 絵本学会の会員で、2007年度までの会費が納入済みであること
2. 発表テーマ 絵本及び絵本に関連の研究テーマで未発表のもの
3. 発表時間 発表20分間 質疑応答10分間
4. 申し込み要領
1)発表テーマ、2)発表者の氏名・住所・電話FAX番号・メールアドレス、3)所属機関名・職業など4)発表要旨 (800字程度)、5)発表時に使用する機材 (PCプロジェクター・スライドプロジェクター・OHP・ODP等) 以上の1)~5)についてA4の用紙にワープロで横書きしたものを絵本学会事務局宛に郵送 (FAX、メールは不可) してください。
また、可能であれば、内容をテキストファイルにし、FD・MO・CDのいずれか (WINDOWS等のOSを明記のこと) で、同時に送ってください。
5. 申し込み締切 2008年3月31日(月) (事務局に必着)
6. 発表者の決定 研究発表は、原則として無審査とします。発表順・時間等は、5月中にお知らせします。

●第11回絵本学会大会作品発表者募集

◎大会会場に会員の作品を展示し、会期中の所定の時間に出品者自らが制作趣旨を口頭で発表します。

◎作品発表募集要項

1. 発表者資格 絵本学会の会員で、2007年度までの会費が納入済みであること
2. 発表作品 未発表の絵本 (個人制作、共同制作ともに可)
3. 発表形態 判型・サイズ・頁数等は自由
原画を原寸でカラーコピーしたシートの全面面と、カラーコピーなどで製本したものを1冊
4. 申し込み要領
1)作品タイトル、2)発表者の氏名・住所・電話FAX番号・メールアドレス、3)所属機関名・職業など、4)原画サイズ・枚数 以上の1)~5)についてA4の用紙にワープロで横書きしたものを絵本学会事務局宛に郵送 (FAX、メールは不可) してください。
5. 申し込み締切 2008年3月31日(月) (事務局必着)
6. 発表者の決定
作品発表は、原則として無審査とします。作品搬入の期日・方法等については、4月中にお知らせします。口頭発表の順・時間等は、5月中にお知らせします。

事務局からのお知らせ

●理事会

●2007年度第3回絵本学会理事会

日時：2007年12月8日(土)13:00~17:00

会場：東京都中央区佃区民館2号室

出席者：佐々木宏子会長、三宅興子事務局長、生田美秋、
笹本純、竹迫祐子、永田桂子、灰島かり、正木賢一
議長：永田理事

★報告事項

1. 前回議事録の確認

2007年6月30日に開催した理事会議事録を確認。

2. 第10回絵本学会大会の報告

絵本学会大会実行委員であった竹迫理事より、事前に今井大会実行委員長から提出されていた決算報告書をもとに、6月30日、7月1日に武蔵野美術大学で開催された第10回絵本学会大会について報告がなされた。参加数は合計297名、交流会の当日参加が多かったこともあり、3千円強の黒字であった。大会の内容は、「絵本学会NEWS」31号を参照のこと。

3. 10周年記念事業の報告

竹迫理事より、武蔵野美術大学の援助もあり、10周年記念誌を予算より安く発行できたことが報告された。ホームページにアップするために、情報をホームページ担当の正木理事に送る予定。また、絵本学会のこれまでの記録写真を事務局から預かっているが、そのほかにも多くの保存資料があるはずなので、今後事務局に出向いて資料を探索したいとの申し出がなされた。今後、残すべき情報を取捨選択して、10年のデータベースを作成する予定。

4. 各委員会報告

1) 企画委員会(灰島委員長)

配付資料に基づき報告。2007年10月6日に絵本フォーラム「和の絵本を考える」を開催した。参加者は57名。講師が全員絵本学会員ではなかったために講師料がかさんだ結果、参加者を増やす努力をしたが、2万円強の赤字が生じた。参加者には絵本学会員が少ないという傾向が見られる。大会は3名の講師によって、朝の10時半から夕方4時までと贅沢な内容であったが、時間的に長すぎるのではないかと考え、次年度のフォーラムは午後限定するなどして、絵本学会員と一般の参加者をつなぐ形でテーマ等を考え、今年度の赤字を埋め合わせたいと考えている。

2) 紀要編集委員会(永田委員長)

『絵本学』第10号に、7編の応募論文が提出された。11月中に紀要委員3名で協議をし、5編を修正を経ての掲載と決定した。12月15日までに執筆者に連絡予定。

3) 機関誌編集委員会(生田委員長)

「絵本BOOK END2007」を6月に朔北社から発売した。費用は、印刷109万円、編集に25万円の134万円ほどであった。現在次号の編集作業に入っている。

4) 研究委員会(棚橋委員長)

棚橋委員長からの配付資料に基づいて、三宅事務局長が代理で報告。11月11日に「月刊絵本・絵雑誌の細目・資料等のデータベース化に関する研究会」が開催された。なお、「戦前のキンダーブック」の展覧も同時開催したが、その図録の余部を絵本学会に提供してもよいという件を討議の結果、次回「絵本学会NEWS」に同封する形で個人会員に配布することとなった。

5) 広報委員会(笹本委員長)

「絵本学会NEWS」31号を発行した。諸事情で9月上旬まで発行が遅れ、絵本学会フォーラムの開催にぎりぎりであったことを反省している。次号は1月早々に発行する準備をしている。その号に次回絵本学会大会の案内を掲載する予定。また、ホームページ担当の正木理事から、ホームページ運用に関して、情報窓口の一本化を進めたいと考えていること、今回の絵本学会大会の報告、次回11回大会の予告もアップする予定であることが報告された。

5. 第11回絵本学会大会進捗状況について

第11回大会の事務局である藤女子大学の杉浦実行委員からの報告資料に基づき、11回大会の案を検討した。研究発表と作品発表が同時に行われることになっているが、できれば10回大会のように、時間が重ならないように配慮して欲しいこと、ラウンドテーブルに絵本表現に関する内容を加えることが提言された。なお、笹本理事より、「絵本学会NEWS」の次号で、研究発表者および作品発表者を募集するが、発表者の時間割り振りなどは昨年通りでよいかを大会実行委員会に質問して欲しいとの要望がなされた。

6. 会費納入状況の報告

事務局長より、会費の納入状況は前年度とほぼ同等であるが、予算案に達していないこと、3年間会費未納者を除籍したことが報告された。次回「絵本学会NEWS」発送時に会費未納者に督促状を同封する予定。また、賛助会員が漸減しているので、会長から心当たりの諸団体に依頼して欲しい旨の要望がなされた。

7. 後援名義の報告

事務局長より、今年度の後援は、4件、3団体であることが報告された。

8. 寄贈図書報告

事務局長より、寄贈図書が5冊あったことが報告された。

9. 国際児童文学学会研究大会京都大会の報告

事務局長より、絵本学会が協賛した国際児童文学学会京都大会が、多数の参加者を得て、興味深い内容であったことが報告され、礼状が披露された。

10. その他

・事務局より、絵本学会のレターヘッドを作成したことが報告され、理事が自由に用いることができるように、PDFファイルとして配布することとなった。

・竹迫理事から台湾ブックフェアのブースに絵本学会の資料を置くことが可能であるとの提言がなされた。それに関連して、事務局長より、英文の絵本学会案内を作成予定であることが報告された。

★審議事項

1. 会員の入退会

2. 第10回大会の反省、今後の開催での注意事項など

10回大会実行委員会から反省点を文書にまとめ、今後の絵本学会大会を開催するに当たっては、大会実行委員会と理事会とをむすぶ窓口を設けてほしい、細かい大会のマニュアルを作成して欲しいとの要望が出された。それに対して、三宅事務局長から、既存の大会開催のマニュアルの改訂版を7月に作成し、既に11回大会の実行委員会に送付済であることが報告された。また、討議の上、外部への大会招待は、大会実行委員会がそれぞれの大会の状況に合わせて行うこと、周辺団体に対しての招待は実行委員会が行うが、必要に応じて会長名で招待状を発送することもできることとなった。類縁学会などへの案内も、今後はWebでの相互案内を依頼するなど、無理のない範囲で連携を深めることが確認された。

3. 『絵本学』No.10の掲載論文について

紀要編集委員長の永田理事より、応募論文に関する講評がなされ、掲載の決定について了承された。次年度の応募要項変更案が配布され、承認された。

4. 『絵本ブックエンド』5号(2008年度版)について

機関誌編集委員長の生田理事より2008年度版の編集案が配布され、内容については前号を踏襲し、特集を追加するとの説明がなされた。3人の編集委員で記事を分担し、編集や校正を編集委員が行って経費の節減を図る予定であること、朔北社との契約は前号通りであるが、絵本学会への献本数を600部に増加することなどが報告された。内容に関して理事から提言があり、概要が了承された。原稿の依頼は12月中、締め切りは来年2月末、発行は4月末とし、「絵本学会NEWS」に同封する形で会員に配布する予定。

販売促進策として、全国の絵本書店へ告知をすること、『日本児童文学』や『みづゑ』などの関連する雑誌に発行の広報を依頼すること、一枚物のダイレクトメールや販促チラシなどを作成すること、他学会のホームページに内容の案内を掲載して貰うこと、などが提案され、承認された。なお、前号の訂正を次回「絵本学会NEWS」に掲載する予定。

5. 絵本学会の後援名義の内規

賛助会員の行う展覧会等は無条件で後援し、それ以外は会長と事務局長との協議により幅広く後援するという方針で内規を定める予定。

6. その他

・絵本フォーラムの赤字について

今回のフォーラムの赤字を補填することが了承された。次回のフォーラムは絵本学会の存在を一般に広報できるようなテーマを設定し、企画を早めに立てて、目立つチラシを作成し、広報のルートを考えるなどの提案がなされた。

・事務局の保管物の在庫について

『絵本学』と「絵本学会NEWS」の在庫を前事務局から現事務局へ移管し、整理を行った。「絵本学会NEWS」は、各30部を残して廃棄した。『絵本学』は図書館等に寄贈することを考えている。2、5、6、7、8号は残部が多いので、欲しい会員には送料着払いで無料頒布したい。『ブックエンド』のバックナンバーはこれまで1冊500円で販売していたが、今後はセットにして安く販売したり、絵本専門店に買い取りを依頼したりし、会員にはより安価で販売するなどして、100部を残して在庫を整理することとする。その処理には事務局があたることが確認された。

・ホームページの更新について

ホームページによって絵本学会大会の情報を得たり、入会の申し込みをする人が多いため、ホームページの充実が重要であり、更新を常時行うように留意したい。

・国外からの入会希望者について

入会金及び年会費を日本円で支払うことができれば、入会を許可することが決定した。ただし、学会発表については日本語で行う旨の記述を入れることが了解された。

・次回の理事会

2008年4月13日(日)13:00より 中央区の区民館を予定。

●寄贈図書のお知らせ

2007年8月～12月の間に、以下の図書が絵本学会に寄贈されましたのでお知らせします。(到着順)

★朝日新聞社事業本部大阪企画事業部より

『ありがとう！チョーさん長新太展ナノヨ』図録(朝日新聞社2007)121p2冊。

★ちひろ美術館・東京より

『ちひろ美術館の30年』(ちひろ美術館2007.9)79p。

★国際児童文学学会(IR SCL)2007日本大会実行委員会より

International Research Society for Children's Literature
18th Biennial Congress (IR SCL日本大会実行委員会2007)166p。

★軽井沢絵本の森美術館より

『2007年夏の企画展民話えほん展—姿を与えられた伝承物語—』図録(軽井沢絵本の森美術館2007)53p。

★京都女子大学発達教育学部児童学科より

『京都女子大学図書館資料特別展観戦前のキンダーブック』図録(京都女子大学・京都女子大学短期大学部図書館2007)13p。